
つれづれ (3)

土堀 友

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
つれづれ(3)

【Nコード】
N3450M

【作者名】
土堀 友

【あらすじ】
仕事でストレスが溜まる。

「なら、こんなことしないで仕事したら？」
「もつとも、でもねー」

つれづれ(3)

仕事が溜まってストレスも溜まってきています。

人生、気楽に生きたいと思うのですが・・・

大きな仕事が入ってきて、友達にも相談して何とか完成を目指しますが、一ヶ月が経過しても周辺処理ぐらいいしか進んでいません。頂上は遙か遠く。これから暫く徹夜が続くかも知れません。

もう年なので、そんなことを請けたら体が持たないと思うのです。「できません」と、ひとこと言っちゃえばいいのに、そこが浮世の悲しさ。カッコよく「まかせなさい」等と言っちゃって・・・バカだね、一体どーするのよ。

さて、私にしては力作「なにゆえ生きていること」が完成し、やれやれ。

何故に『小説を書くこう』なにゆえと思い立ったかは、別の機会にお話ししようと思っていますが、チンケな小説一本でも完成させることがこんなに大変なことであるとは、夢にも思わなかった。最後はビーズの『まけないで』のCDを聴きながらゴールイン。(ちよつと古いですがね、私としては最新のノリですけど)

読み返してみると気に入らない所が『大かりし』という訳で、これから友人のアドバイスなど取りいれて手直したいと思っています。ですから『完成したと思ったが、実は未完成なのではないか』と感じています。

夢と言えば、夢を見て感じるままに感じる事を書いてみたいと考えています。そこで、そのように書き始めてはみるが、途中で自分の意思が入り込んできて創作の邪魔をするのです。後でその作品を読み返してみると、その自分の意思の部分が妙に鼻について、その作品は駄作に思えてしょうがないのです。そこで、その部分を『削

除』する、または『何かに置き換える』という作業に手を付けることになるのですが。

その様に、感じる事を書くという事で満足するかと思いきや、実は、自分の意思を削除することにより、自分の存在が消えてしまうのでは無いかという大きなジレンマに陥ってしまいます。

六月十七日、文芸講座に参加してみました。その話です。

初回ですので少し早い目に行きました。張り切り過ぎたのでしょうか、まだ誰もいませんでした。二つほど向こうの市ですので、道路事情も分らなかったのです。私の住んでいる市の方が大きいのに、税金ばかり取ってダメですね。

資料をたくさんもらいました。私はサクランボの柄で出来た布地で表紙を作りました。オリジナルファイルで、ご機嫌です。沢山といっても一冊のファイルに収まります。すぐ読めそうですが、まだ全部読んでありません。

講座の後、デスカッションがありまして、参加者の方がいろいろと発言していましたが、私は発言できず黙っていました。仮に講師が私に向かって「この講義はどうでしたか？」と尋ねたら、私は「よかったです」と答えるでしょう。

では、具体的にどこがどの様に良かったのでしょうか。

私はそれに対してうまく答えられません。「そう感じました」と、たぶん答えるでしょう。

私は言葉や、文章でうまく表現ができないからだと思います。うまく表現できないことは、文章表現が未熟なだけであって、『感じた』ことは、『講義の内容に共感した』と言い換えたらよろしいでしょうか、多分他の参加者と同じ経験をしたことだと思います。

そう感じた所の一部を抜き書きしてみます。

有機的发展というものは、統一の考え方を元にして、全体に向か

うものであるが、

人間精神の働きは、矛盾の考え方を元にして、過渡性へ向かうものだ。

（キエルケゴール）

もし、人間が最初からどこへ行くか定まっていたり、レールの上を走ることが定まっていたりしたのでは、人間は自由とはいえない

文化的なもの・・・人間精神の不安とか矛盾
過渡性・・・自由の結晶

不安と自由という、いわば、底知れないものを相手に戦わなければならない。

それを恐れてはならない。

（小川国夫）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3450m/>

つれづれ（3）

2010年10月20日18時39分発行